

総務建設常任委員会

委員長	藤野 莞嗣
副委員長	脇田 義政
委員	小林 征男
委員	藤木 匠
委員	黒川 悟
委員	鳴海 圭矢
委員	時任 裕史

農林振興課

「さんさん21」事業の状況

現在、19名の協力で活動を行っており、小学校・保育園の給食用の玉ねぎや焼酎製造のサツマイモの栽培等を行っている。

今年度から、小学校児童へのサツマイモ、ジャガイモ等の植え付け、収穫体験や小学校のバザーで収穫物の販売を考えている

今後は、食育・地産地消運動を絡めた形で事業を進めていきたい。

Q 当初、特産品の開発が謳われていたが、現在どのように進んでいるのか。

A 特産品の開発については、焼酎「宇美さん燦」の製造を今後も行っていく。新たな特産品については、さんさん21と協議を行っている。

「薬草」を利用した農業所得向上及び地域活性化事業

平成30年度から米の直接支払交付金が廃止される。また、T P P の大筋合意により米価の低落が懸念される中、国は農地集積化や高収益作物を中心とした経営への転換等を進めており、農業を取り巻く環境は大きく変化している。障子岳農区では、高齢化や担い手不足が進行する中、農

地を荒廃化から守るため、集落営農もしくは法人化を検討している。

法人化を進めるためには、中山間地域に適応し、収益が上がり、地区の活性化にも繋がるような戦略的な作物を選定することと、同時に担い手の育成と組織体制を確立することが重要である。

そこで、栽培の可能性、収益性、将来性という3つの要素を検討した結果、ミシマサイコとヤマトトウキという薬草を戦略作物としたいと考え、現在、製薬会社、大学等と連携して、5月から試験栽培を始めている。

今後は、試験栽培の結果をもとに、本格栽培に移行するとともに、法人化の設立に向けて、農家、農区、J A、北筑前普及指導センターと協議を進めていきたいと考えている。

Q 本格的な栽培に入り、製薬会社等への販路が軌道にのれば収益も出てくると思われるが、初期の段階で国や町の支援はあるのか。

A 農家にはほ場と労力の提供をしてもらい、町は種、肥料等を提供する。今回は、国の補助制度には該当しない。



(薬草) ヤマトトウキ



(薬草) ミシマサイコ

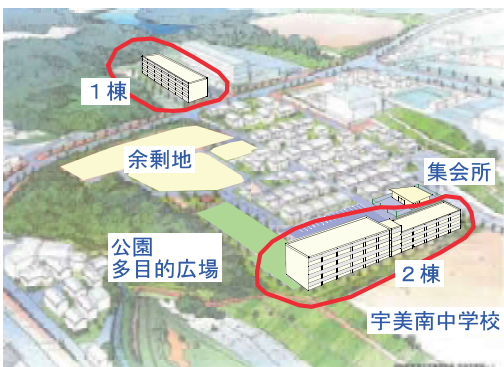
財産活用課

町営住宅建替え事業の変更

平成26年基本計画策定後、入居者が75戸から64戸(予定)へ減少したことにより、4棟建設の予定が2棟へ変更になった。建設工事は平成29年度に1棟目建設、2年後の平成31年度に2棟目建設。平成32年度で完成予定。

Q 1棟と2棟はかなり離れているが、地元説明はされているのか。

A 地元説明会は昨年実施。理解は得ている。



昭和町町営住宅計画図

厚生文教常任委員会

- 委員長 飛賀 貴夫
- 副委員長 犬塚 齊
- 委員 松下 弘毅
- 委員 大瀬良利之
- 委員 藤木 匠
- 委員 南里 正秀
- 委員 古賀ひろ子

健康づくり課

平成28年度健診（検診）及び保健指導の実施体制

宇美町の健康課題を解決するためには、生活習慣病予防（特に糖尿病の発症予防）を重点的に行う必要がある。生活習慣病の発症リスクは、健診結果からしか分からないため、健診（特定健診及び健康診査）を受診することが必要である。

受診機会を広げるため、16歳から39歳で健診の機会のない方、40歳から74歳の宇美町

4月1日現在の入所園児数は、前年に比べ11名減、町立保育所だけでは83名減。前年に比べ5歳児の申込が減少、町立に関しては、保育士の確保ができず、未満児の受入が前年に比べ減少。

認可保育所、家庭的保育施設、認定こども園を含め、704名を受入。待機児童は45名、4月9日に、どれみ乳幼児園が開園し、0歳、1歳、2歳児の14名が入園し、6月1日現在の待機児童は31名。

国民健康保険加入者、協会けんぽの被扶養者（配偶者等）、75歳以上（後期高齢者医療）で生活習慣病の治療を受けていない方も各校区で健診、保健指導を受ける体制を整える。保健師の活動体制を各校区ごとの地区担当とし、校区担当保健師を中心に保健活動を行う。

Q 高齢者ふれあいサロンの健康相談はどうなるのか。

A 保健師による地区ごとの健康セミナーや健診・医療機関でもらった検査結果データに基づいた個別の指導等、相談内容の充実を図る。

子育て支援課

平成28年度保育所入所及び待機児童数

保育士の処遇改善

保育士等の給与区分を2区分から4区分に変更し、あわせて非常勤職員も給与の見直しを行った。



どれみ乳幼児園

学校教育課

スーパードキュメント実施

平成28年度文部科学省の指定制を受け、宇美小学校を実践校として実施。

「食生活習慣を改善し、進んで健康な体づくりに取り組む子どもの育成」をテーマに「夢ビジョンUMI食育プログラム」を策定。

具体的な取組として、7月に、希望する児童の血液検査や体温測定、また、大学と提携した食生活の調査を実施。

その後、本事業に取り組み、2月には事後調査と再検査を実施する。

その間、PTAと共催で食育講演会を実施するなど、様々な機会を捉えて啓発等を行い、事業を実践していく。



宇美小学校

環境課

平成27年度ごみ処理量実績の報告

・ごみ収集量合計

1万258.27トン
前年比2.37%増

・可燃ごみ

7,699.17トン
前年比0.97%増

・資源ごみ

2,347.57トン
前年比6.97%増

・不燃ごみ

90.43トン
前年比5.44%増

・粗大ごみ

121.1トン
前年比4.54%増

Q 収集量は昨年まで減少しているのと認識しているが、若干増えているのは、分別の効果が出ているのか。

A ごみの総量は増えているが、可燃ごみの構成比率は減少している。住民の皆さんの協力により、リサイクル化が図られている。